

⑦オオハンゴンソウ(植物)

植物	国外外来種	
オオハンゴンソウ		
分類		
科名	キク科	
種名(亜種名:*)	オオハンゴンソウ	
学名	<i>Rudbeckia laciniata</i> L.	
英名	Cutleaf coneflower	
異名		
カテゴリー(北海道)	<input type="checkbox"/> A1/ <input checked="" type="checkbox"/> A2/ <input type="checkbox"/> A3/ <input type="checkbox"/> B/ <input type="checkbox"/> C/ <input type="checkbox"/> D/ <input type="checkbox"/> E/ <input type="checkbox"/> h/ <input type="checkbox"/> K	
カテゴリー(環境省)	<input checked="" type="checkbox"/> 特定外来生物/ <input type="checkbox"/> 要注意外来生物	
カテゴリー(日本生態学会ワースト100)/IUCN世界の侵略的ワースト100)	<input type="checkbox"/> 日本の侵略的ワースト100/ <input type="checkbox"/> 世界の侵略的ワースト100	
 <small>2004 五十嵐 博 提供</small>		
導入の経緯		
原産地	北アメリカ	
導入年代	明治	
初報告	十勝(1975)(ハナガサギク)	
全国分布	北海道～九州	
道内分布	全道各地	
導入の原因	明治中期に観賞用として導入され、逸出	
 <small>凡例 外来種も確認した市町村</small>		
種の生態学的特性		
生活史型	多年草	
形態(高さ、特徴など)	100-250cm	
開花時期	8-9月	
生息環境	道端、河川沿い、湿った牧草地など	
特記事項	温帯に分布。頭状花。虫媒花。多年生草本。地下茎から茎を束生し、上部で枝分かれする。	
影響		
被害の実態・おそれ	<p>①生態系にかかる影響 ①国立公園の湿原や河畔林といった自然度の高い環境に定着し、湿原の植物などの貴重な在来植物との競争、駆逐が懸念されている。</p> <p>②農林水産業への影響 ②不明</p> <p>③人の健康への影響 ③不明</p>	
被害をもたらしている要因	<p>①生物学的要因 ①道端、畑地、湿原、河原など肥沃で湿った場所に、地下茎から茎を束生し、大群落を作る。</p> <p>②社会的要因 ②不明</p>	
特徴並びに近縁種、類似種	ワイルドフラワー緑化の材料として使われていた。種間交配などで育成された園芸品種が多く、ルドベキアの総称で流通していたものもある。オオハンゴンソウ属は世界で約30種が知られる。日本に自生種はない。本種以外にアラゲハンゴンソウ(キヌガサギク)、オオミツバハンゴンソウ(ミツバオオハンゴンソウ)などの野生化が確認されている。	
対策	計画的な防除として、引き抜きにより採取し、適切に処分する。登別市のキウシト湿地は、ワラミズゴケ、ツルコケモモ、モウセンゴケなどの貴重な湿原植生がみられ、日本の重要湿地500に選定されている。1997年に確認されたオオハンゴンソウの勢力が広がりに在来種にとって深刻な状況であるため、駆除が行われている。寒冷地に生育でき、大雪山国立公園の周辺部にも侵入している。札幌市円山、北海道大学構内、雨竜沼登山道、利尻島、支笏湖、旭川市などの各地で駆除活動が盛んに行われている。	
その他の関連情報	特になし	
分布図	<input checked="" type="checkbox"/> 有り/ <input type="checkbox"/> 無し	
写真/イラスト	<input checked="" type="checkbox"/> 有り/ <input type="checkbox"/> 無し	
備考		
参考文献(省略、ホームページで全文献名掲載)		